

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第1号 畑作物

発行日 平成21年 3月12日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

小麦

- 暖冬少雪の影響で、生育は例年よりも早まっています。特に適期播種された雪のないほ場では幼穂形成期が早くなることが予想されます。
- 圃場が乾いたらできるだけ早く麦踏み・追肥を実施しましょう。また、排水対策の見直しも忘れずに行いましょう。

1 麦踏み

ほ場が乾いたらすぐに麦踏みを行いましょう！

麦踏みの効果：根の浮き上がりを抑える。茎数の増加、耐寒性と耐干性の強化。生育の均一化、倒伏防止、主稈や早期分けつ茎の幼穂の形成を遅らせて凍霜害を回避するなど。

越冬前に麦の生育が旺盛な場合は、生育を均一にし、かつ耐倒伏性を高める効果もあります。鎮圧ローラーやタイヤなどを用いて麦踏みを行いましょう。消雪後の茎立ち前、**圃場が乾いているとき**に行います。

ただし、排水不良の圃場や土壌水分が極端に高い場合は、土壌が固結し根の発育障害がみられるなど、かえって圃場を荒らすこともあるので無理な実施は避けます。

2 融雪期追肥

例年よりも幼穂形成期は早まりそうです。茎立ちが早いので直ちに施肥しましょう！
また、縞萎縮病や白鳥による食害を受けた場合も融雪期追肥が有効です。

融雪期追肥は下記の表を参考に生育量を確認してから行いましょう。生育が早まりますので、**茎立ち前までに適期を逃さず作業することが重要です。**

またナンブコムギの縞萎縮病には融雪期追肥を積極的に行うことで被害を軽減している事例が多く見られます。

表1 生育量に基づく融雪期窒素追肥の目安

品種名	診断内容	融雪期窒素追肥の対応
ナンブコムギ	越冬後株数 75~120株/m ² (茎数 400~1000本/m ² 程度)	2kg/10a追肥
	越冬後株数 120株/m ² 以上 (茎数 約1000本/m ² 以上)	追肥しない
ゆきちから	越冬後茎数 1400本/m ² 未満	4kg/10a追肥
	越冬後茎数 1400~1900本/m ²	2kg/10a追肥
	越冬後茎数 1900本/m ² 以上	追肥しない

3 除草

雑草の発生も早まると考えられます。**圃場を観察し、雑草が生えそろうたらすぐに茎葉処理を散布しましょう。**ラベルをよく読んで使用しましょう。

表2 主な茎葉処理剤の種類と使用方法

薬剤名 10aあたり散布量	適用雑草	使用時期	使用回数	使用方法・使用上の注意事項
ハーモニー75DF 水和剤 5～10g 希釈水量 100L	畑地一年生広葉雑草及びスズメノテッポウ	播種後～節間伸長前(スズメノテッポウ5葉期まで)	1回	<ul style="list-style-type: none"> 茎葉散布。 砂土では使用しない(適用土壌:砂土を除く全土壌)。 雑草の茎葉によく付着するように散布する。 雑草の葉齢が進んでいる場合や、散布直後の降雨で効果が劣る。 散布後はタンクや散布器具は消石灰(500倍液)を使用して十分に洗浄する。
エコパートフロアブル 50～100mL 希釈水量 100L	畑地一年生広葉雑草	小麦節間伸長長期まで(広葉雑草2～4葉期、ヤエムグラ2～6節期) 【収穫45日前まで】	2回以内	<ul style="list-style-type: none"> 雑草茎葉散布。 他薬剤との同時散布及び7日以内の近接散布を避け、展着剤を加用しない(薬害)。 重複散布を避ける(薬害)。 麦踏み後数日は使用を避ける(薬害)。 散布直後降雨が予想されるときは使用しない。 散布後葉身に白斑が見られる事があるがその後の生育及び収量には影響がない。
アクチノール乳剤 100～200mL 希釈水量 70～100L	畑地一年生広葉雑草	雑草生育初期 【穂ばらみ期まで】	2回以内	<ul style="list-style-type: none"> 雑草茎葉散布。 雑草が生えそろう、小さいうちに散布する。 春処理はヤエムグラに効果が高い。 河川・湖沼及び養魚池等に飛散・流入するおそれがある場所では使用しない。
バサグラン液剤 100～200mL 希釈水量 70～100L	畑地一年生雑草(イネ科を除く)	小麦の生育期(雑草の3～6葉期) 【収穫 45 日前まで】	1回	<ul style="list-style-type: none"> 雑草茎葉散布。 生育期に雑草の発生が目立つ場合に有効である。 散布後降雨が続くと効果が劣ることがある。

4 コムギ萎縮病、縞萎縮病について

どちらの病気も土壌伝染性のウイルスが原因となっており、種子伝染はしません。名前のおり株が萎縮し、黄緑色のかすり状の斑点・モザイク症状を示します。特にナンブコムギでは多発圃場が年々増加しており、今年も被害が大きくなることが予想されます。
萎縮病の症状が見られた場合は、追肥で被害を軽減しましょう。

表3 品種別の病害抵抗性と、発病圃場における被害軽減対策(平成3年度 指導上の参考事項より)

品 種	病害抵抗性	被害軽減対策
ナンブコムギ	弱	○後期追肥(減数分裂期～出穂期)を実施する。 ○施用量(N成分 10aあたり)は2～4kgとする。
コユキコムギ	中	○後期追肥(減数分裂期～出穂期)を実施する。 ○施用量(N成分 10aあたり)は地力別に次の通りとする。 低地力圃場では減分期 4kg+出穂期 2～4kg、中地力圃場では減分期 2kg+出穂期 2kg、高地力圃場では出穂期 2kg
キタカミコムギ	中	○ナンブコムギの対策に準ずる。

※追肥を実施する際は、倒伏の危険がないか確認してから行うこと。

※ゆきちからの縞萎縮病に対する抵抗性は「強」である。

5 排水対策

昨年秋に行った排水対策も、冬の間には排水溝が崩れたり、途中にゴミが詰まっていたりして、うまく排水できない場合があります。**ほ場を点検して確実に排水できるように補修を行いましょう。**

例年、隣接する水田からの流入水等の影響で生育の悪いほ場が散見されます。畦畔を整備するとともに、茎立ち前に、ほ場内排水溝を設置しておきましょう。

麦の湿害は生育初期よりも融雪期から生育後期の方が大きいといわれています。土壌水分の高いところでは、草丈が短くなり収量が低くなるという報告も！

次号は4月23日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。